



溫

故

雜

帖

卷十一

2715  
11

10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2

第十一卷

高山夫人日記、断片	一	信夫忠行書送柏木探水序	一
古畫、蟹、一國	一		
孤山人草郎、俳句	一		
宗座美濃、古神文	一		
奥田三郎、消息	一		
登米除穢書、鷲澤丸、詩、序書	一		
文晁、一筆、松、函、直、返、書、卷	三		
安永年向水使帳、断片	一		
世及書	一		
尻鏡、五人、北、一、跋文	一		
蜀山人日筆の反故	一		
重頼、郵公、し、句	一		
東部、故人、し、七、帖	一		
古文書、消息	一		
口、し、使、即、書、し、間、一、寫、出、書	一		
古文書、消息	一		
村田了阿、筆、小品	一		
七、村、桂、及、句、小品	一		
天保、十二、種、中、の、拜、領、奉、書、卷、一	一		
懸想、文字、本	一		
水戸先國卿、消息	一		
誠後守顯時、消息	一		
後藤、世、山、素、熟、則、草、本、一	一		
古田織、好、一、消息	一		
弘子綱、要、領、賜、被、論	一		
羊、時、貞、一、札	一		
張元濟、天、族、王、所、時、文、漸、快、一	一		
近世、尚、道、御、針、之、名、忠、談、小、切、一	一		







山(と)の(麓)の(野)の(中)に(桃)の(花)が  
 梅(の)の(花)も(あ)る(が)其(れ)が(白)い(と  
 去(る)風(を)あ(ら)わ(す)る(が)西(の)陣  
 物(の)花(は)一(つ)に(は)な(ら)ず(は)な(ら)ず  
 いろ(いろ)と(な)る(が)紅(白)の(花)相(を)  
 王(子)が(能)為(物)の(木)の(洞)を(開)く

風(の)花(は)一(つ)に(は)な(ら)ず(は)な(ら)ず

去(る)風(を)あ(ら)わ(す)る(が)西(の)陣

王(子)が(能)為(物)の(木)の(洞)を(開)く  


梅(の)花(は)一(つ)に(は)な(ら)ず(は)な(ら)ず  
 いろ(いろ)と(な)る(が)紅(白)の(花)相(を)

去(る)風(を)あ(ら)わ(す)る(が)西(の)陣

一 間口三軒 二階地建家  
三軒は地行は藤

代今指毒

右通書友方に養後し中折突正也別  
 書面一人高世世遺性清夜中物の上著  
 右建家(は)中(の)指(合)は(る)長(梅)中(の)著(一)切(書)は  
 中(の)指(合)は(る)長(梅)中(の)著(一)切(書)は





藤森脩藏

右當縣少參事申付

左事

八月

登米縣權知事

藤津九藏

文苑画壽河撰之



壽河  
妙法

追  
草信楚

子  
月  
檢校  
綾の  
一  
流  
佐

劇  
神  
仙  
撰  
書





平泉  
 松樹千年孫女行ぬ津果ぬさの世の神  
 三十とこの美をも解く流くちのしを  
 雲とく行ぬの神の何の世もか  
 七神もたぬのしをたぬの神  
 にくやともたぬのしをたぬの神  
 とは神の指授み身をたぬの神

くるたともたぬのしをたぬの神  
 其身をたぬの神の神もたぬの神  
 高たぬのしをたぬの神  
 羽根連く帰る神の神もたぬの神  
 未たぬのしをたぬの神  
 事。物をたぬの神

44の原を解向をたぢるもいふも  
七音信ふくくおの昔の昔を女古  
今も秋くぬ思ひの初も極も極も  
この昔の色をたぢるも昔集極も  
津も解の昔もあふくぬの  
解居の草むす

朋友

詞令  
鱗集  
能子  
窟惠  
聖湖

北政考據本二卷(一) 文亦亦



あふり問ふ巻

廿一  
天保十三  
九十七  
廿一  
辰年  
辰年  
辰年  
辰年  
辰年  
辰年  
辰年  
辰年

Main body of handwritten Japanese calligraphy in cursive (sōsho) style, consisting of multiple vertical columns of text on aged paper with significant water damage.

明治五年四月八日  
安永元辰年四月八日  
同日

天保十三年  
辰年四月八日  
同日

天保十三年  
辰年四月八日  
同日





Handwritten notes on a small rectangular paper slip at the top right of the page.

あふり問ふ巻

Main body of handwritten text in cursive Japanese (sōsho) style, arranged in several horizontal columns across the page.

Handwritten notes on a paper slip at the bottom left of the page.

Handwritten notes on a narrow paper slip at the bottom center of the page.

Handwritten notes on a paper slip at the bottom right of the page.



Handwritten text in cursive script (草書) on aged paper, organized into two horizontal lines across multiple columns. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to be a form of Chinese calligraphy. The paper shows signs of age, including yellowing and some staining.

Handwritten text in cursive script, located on the right edge of the paper strip.

Handwritten text in cursive script, located on the right edge of the paper strip.

Handwritten text in cursive script, located in the upper right section of the strip.

Handwritten text in cursive script, located in the lower right section of the strip.

Handwritten text in cursive script, located in the upper middle section of the strip.

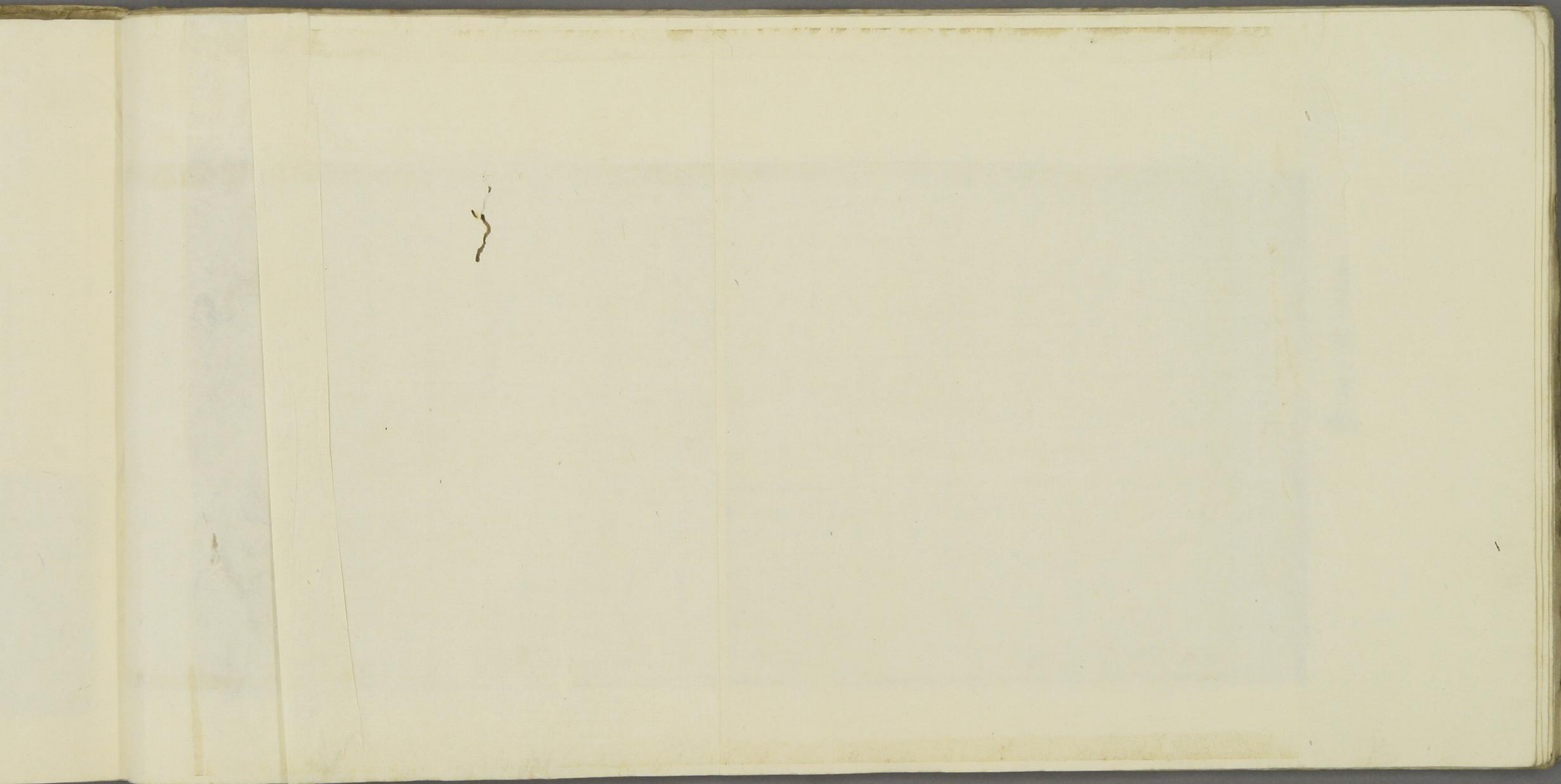
Handwritten text in cursive script, located in the lower middle section of the strip.

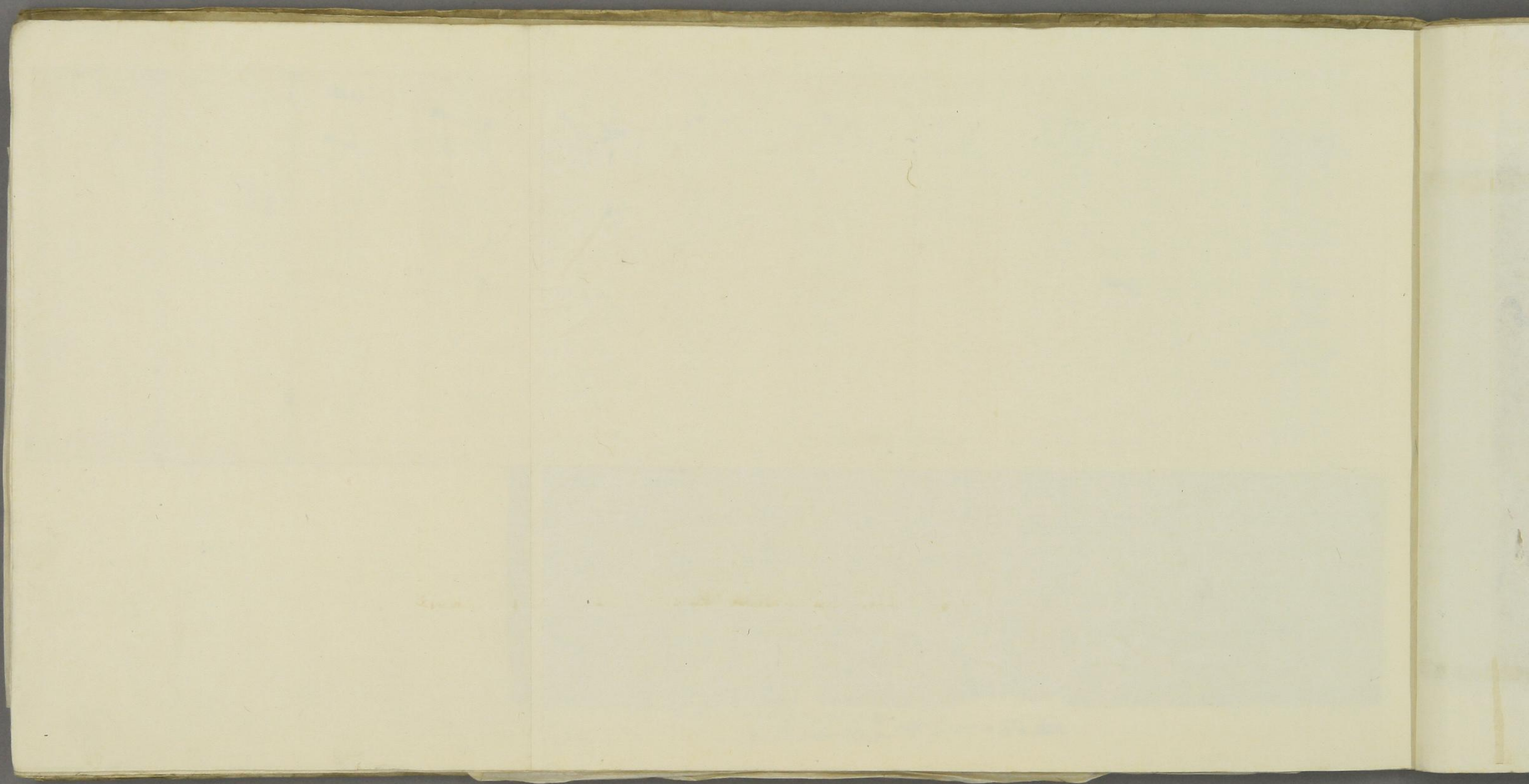
Handwritten text in cursive script, located in the upper left section of the strip.

Handwritten text in cursive script, located in the lower left section of the strip.

Handwritten text in cursive script, located on the far left edge of the strip.

Handwritten text in cursive script, located on the far left edge of the strip.







覺

大日本史老部

右價料

楮幣拾兩

御廻相成

正落掌供

以上

四月廿日

西尾 藤原 佐藤 兼 藤原 兼 藤原 兼

服部 天 郎 孫

和歌集

辰陸々いひや  
とてよんねん  
北吉北の路のちりま

可平金銀と換へては雅と好むものありはるかと殿一と當世を  
くすものありこそこのむよおのりそよ冬をく換益のころりそよ  
世よとてこのものあり一今やい部の能き花を拂の雨雲をあらえ  
筆のちりまあり 甲驪馬を乗しといふはいほく せよるまの帝  
皆指のありはしこいれと流るると起しとていふことと補の世あり  
色 ちりまの南よるものありは生得とては新とて好む一日にわた  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
て自ら眼のさるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
ちりまのちりまのちりまのちりまのちりまのちりまのちりまのちりま  
文化え甲子に年一 仲夏 辰陸々いひや  
碎中一跋

新田代記



Handwritten text on a separate piece of paper, possibly a title or description.



朝八心書

長年  
吟吟  
之乃

永念  
全念  
百六十日

之三

之五

之七

長三

長五

長七

長九

長十一





法華

池菴詞伯

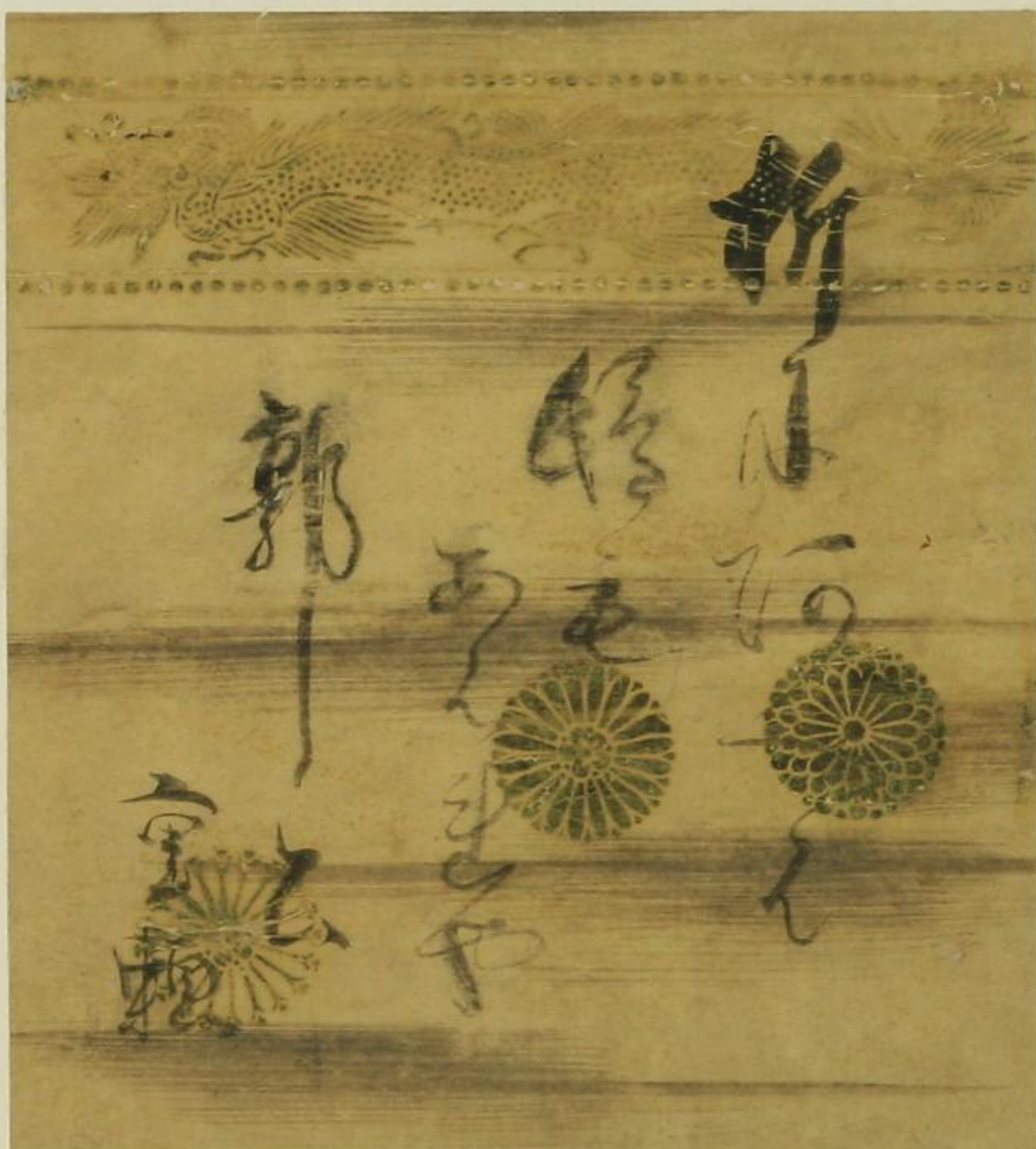
縱橫筆法揚公軍父

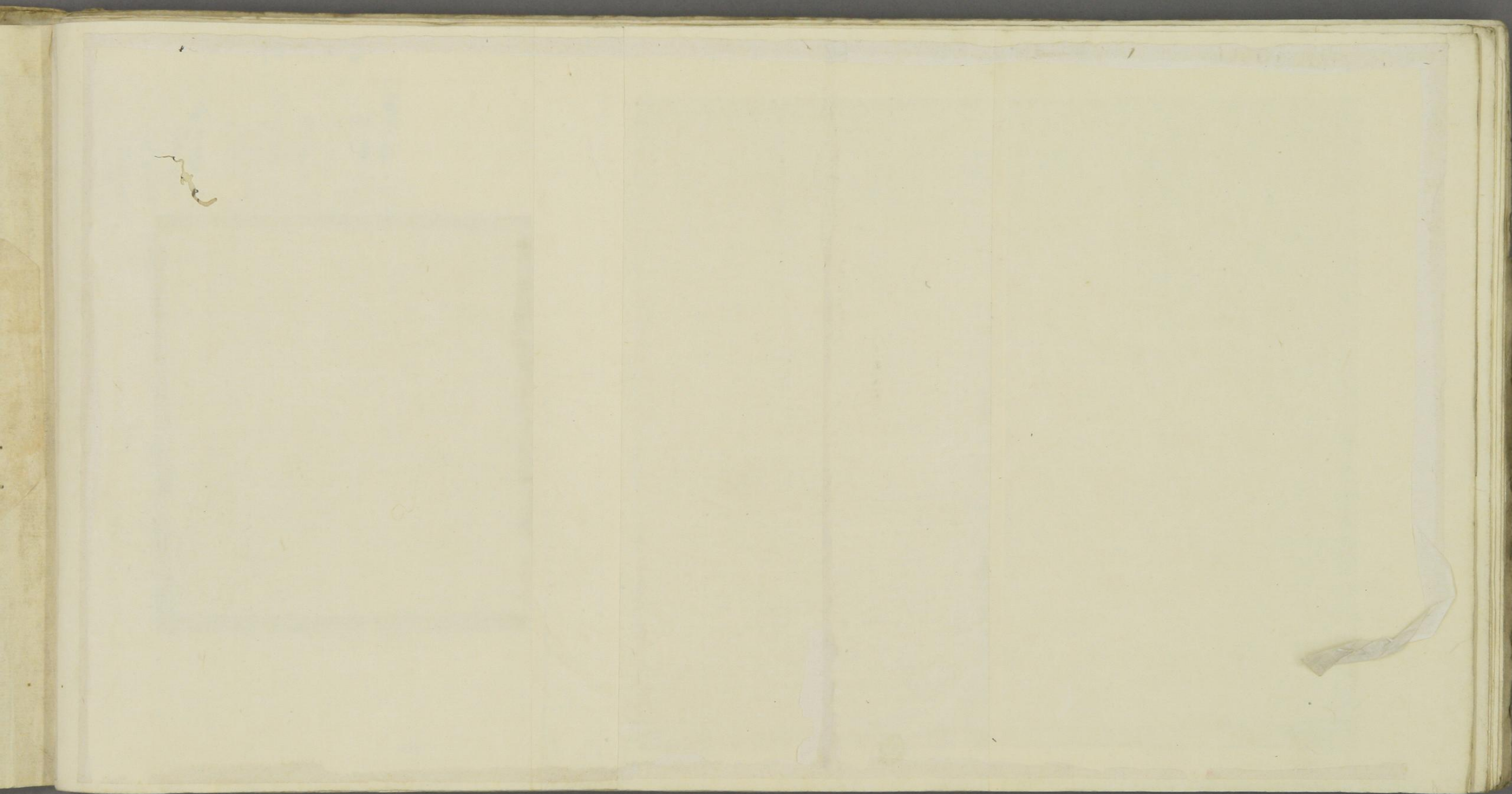
子高名並出聲晴

小軒揮灑交座中

年說筆生志

辛卯仲冬 書於





一まつけいといたし  
 さといせのたーろこ。むじぶね。せを  
 たいくや。だゆ。このたを。て。か。ち。を  
 ねら。そ。れ。り。あ。か。れた。七月。干  
 日。に。あ。つ。か。と。ま。あ。ま。あ。か。い。  
 け。ま。あ。ね。ん。く。り。そ。れ。り。か。か  
 ー。や。つ。と。や。と。ころ。わ。た。ら。ゆ。さ。て。あ  
 く。ほ。ま。あ。より。このたを。わた。に  
 を。入。す。わ。た。二。の。あ。う。け。このほ。と。ほ  
 さ。ま。と。ん。や。わ。た。三。す。ぐ。に。日。本。に  
 と。ま。て。あ。す。が。は。い。う。つ。いた。ゆ。て。三  
 人。の。し。の。も。す。く。は。は。い。と。ん。を。あ  
 くに。あ。ー。ま。わ。た。に。このほ。と。ほ  
 さ。ま。と。ん。や。つ。け。い。ま。あ。い。な。このこ。と  
 に。い。と。ん。や。に。ん。あ。ま。あ。ー。と。ん  
 たり。は。か。い。な。あ。い。く。た。い。い。この  
 み。る。と。あ。ゆ。と。い。た。い。あ。ま。あ。い。三月。  
 ぢ。あ。ん。ま。あ。い。に。い。て。の。こ。と。あ。い  
 ま。あ。ま。あ。い。の。こ。と。あ。い。に。い。て。あ。い。の。こ  
 と。あ。ま。あ。い。の。こ。と。あ。い。に。い。て。あ。い。の。こ  
 の。あ。い。ま。あ。い。ひ。と。の。あ。い。ま。あ。い  
 き。あ。い。ま。あ。い。の。あ。い。ま。あ。い。の。あ。い。ま  
 り。か。あ。い。ま。あ。い。の。あ。い。ま。あ。い。の。あ。い。ま  
 又。い。お。な。た。あ。い。ま。あ。い。の。あ。い。ま。あ。い。の。あ。い。ま

まつまゑ志まのかみさま  
 をろーいまのこに  
 なわ。あたむ  
 らくすまん  
 なわ。わーわい  
 ろ。あ。ち。ふ

まつまゑ志まのかみ様

あたむ  
らくすまな



Imosi na Ni minisi  
Sedomo furorato no  
Samo na Kou Kapsaku  
Nimho tori Hannu.

Dr. Aug. Schubert de Seel

西へ手紙のこゝろは皆下たの者ふや付  
あまふひのこゝろにねらひをせしめてあらはし國  
前合味おぼの通商を好むといひ  
識は社会の好む者ももつては信をせし  
は場共只返事もあるべくなればゆか  
異変もして世の天下にさしあはし  
後立も通商もする人同様に  
それよりいふ如くおぼの通商を好むといひ  
まゝに受け入れの事並にせしめしむ  
此の地よりあけられしならぬといひ  
候ふといふは海を渡る事なれば  
海に上ルル事(通商)は人にしては  
よからぬ道ちらうとせしめしむ  
ねらひの海に上る事なれば  
後交る事なれば  
はしめしむ  
おろや

お前通商の事



Handwritten text in a cursive script, likely a list or record, written on a separate piece of paper pasted onto the page.

*Amori meo hi ministe  
 Prodomo furorato no.  
 Sanno meo hui hapsaku  
 Nichte tori hanna.*

*Dr. Aug. Schubert de Seel*

ヲロシヤ 船大将

ミカライサンダラン

三十二名

下役

ヒヤウドマルキテ

三十四名

イロムベドロエテ

二十五名

船次

ヒヤソドギワエテ

三十四名

商人

ミハラエテミワ子コフ

小船大将

ガブリウワイウノエテ

二十四名

二艘人数都合

六十名

文化四年丁卯六月魯西亞ヨリ宗谷マテ送りシ書狀本書ハ  
 魯西亞ノ紙ニテ一枚紙ニ右如ク本文ヲ上ハ書キ其下ニ右名前ヲ  
 シルス今寫ス所文字ヲ配リ大キサ并ニシタリノ長短ハウシク本書ト  
 違フベシ唯字ト假名ト書體ノミ其真面目ヲ失ハスト云



休上米州支配本  
 書  
 文  
 化  
 四  
 年  
 丁  
 卯  
 六  
 月  
 曾  
 西  
 亞  
 ヲ  
 宗  
 谷  
 マ  
 テ  
 送  
 リ  
 シ  
 書  
 狀  
 本  
 書  
 ハ  
 曾  
 西  
 亞  
 ノ  
 紙  
 テ  
 一  
 枚  
 紙  
 ニ  
 右  
 如  
 シ  
 本  
 文  
 ヲ  
 上  
 ハ  
 書  
 キ  
 且  
 下  
 ニ  
 右  
 名  
 前  
 ノ  
 シ  
 ル  
 ス  
 今  
 寫  
 ス  
 所  
 文  
 字  
 ヲ  
 配  
 リ  
 大  
 キ  
 サ  
 并  
 ニ  
 シ  
 タ  
 リ  
 長  
 短  
 ハ  
 書  
 シ  
 本  
 書  
 ト  
 違  
 フ  
 ベ  
 シ  
 唯  
 字  
 ト  
 假  
 名  
 ト  
 書  
 體  
 ノ  
 ミ  
 其  
 真  
 面  
 目  
 ヲ  
 失  
 ハ  
 ス  
 ト  
 云

文化四年丁卯六月曾西亜ヨリ宗谷マテ送リシ書狀本書ハ  
 曾西亜ノ紙テ一枚紙ニ右如ク本文ヲ上ハ書キ且下ニ右名前ヲ  
 シルス今寫ス所文字ヲ配リ大キサ并ニシタリ長短ハ書シ本書ト  
 違フベシ唯字ト假名ト書體ノミ其真面目ヲ失ハスト云

- ヲロシヤ 船大将 三十二才
- ミカライサンダラン 三十二才
- ト波 三十二才
- ヒヤウドマルキテ 三十四才
- イロニンドロエテ 二十五才
- 船次 二十五才
- ヒヤンドギワエテ 三十才
- 商人 三十才
- ミハラエテミワ子コラ 三十才
- 小舟大将 三十才
- ガブリウワイウエテ 二十才
- ニ艘人数船合 二十才
- 六十才



In Aug. Subalors de Soul  
 Amoi ma ho minise  
 Freedom purvato ma  
 Same ma ho hojohu  
 Minto tori hame.





抄本

此石者乃新出之  
石也

石之代盤心之  
石也

休運上米州並配法兼  
石也

石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也

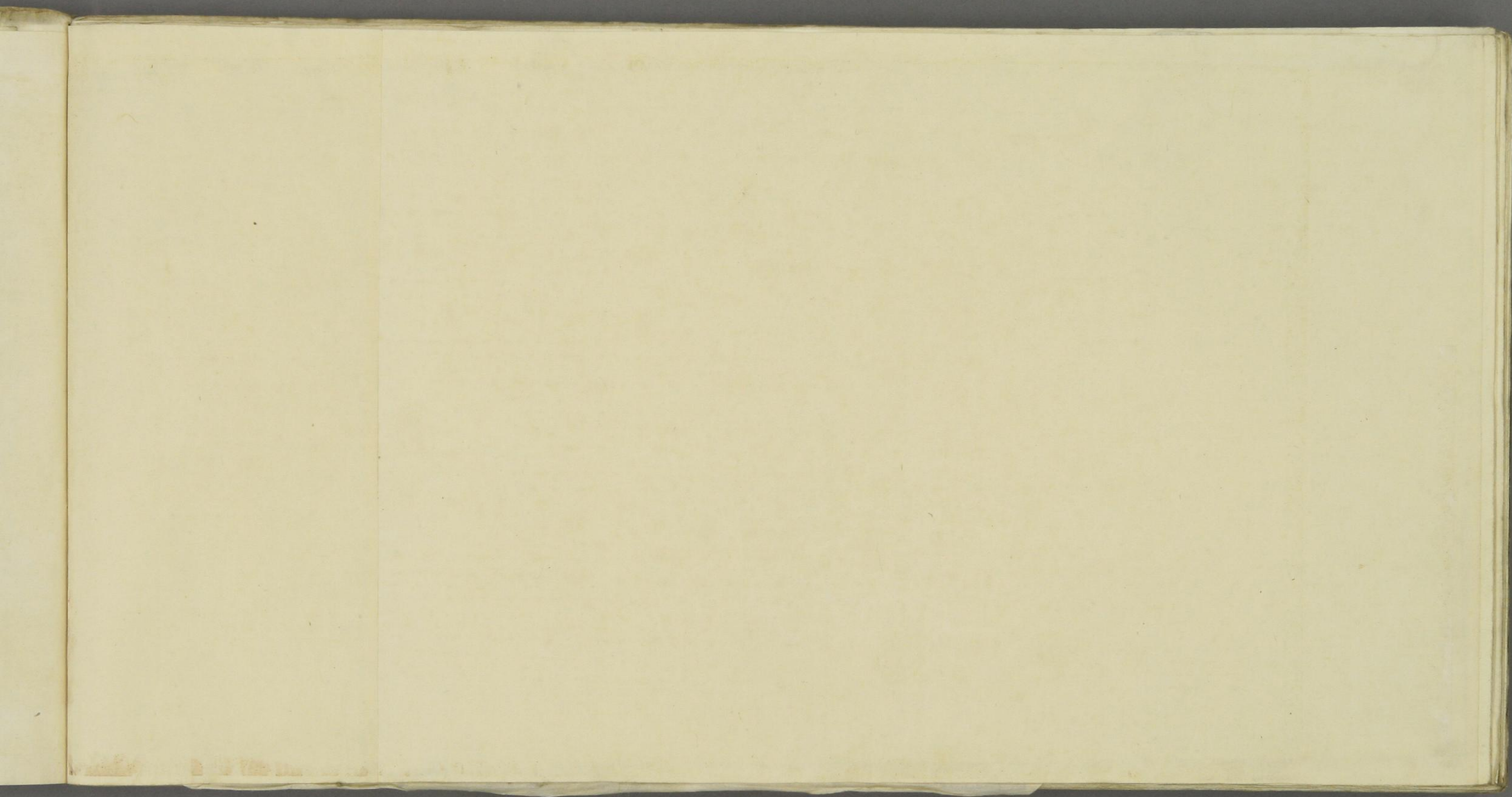
石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也

石下色之石也  
石也





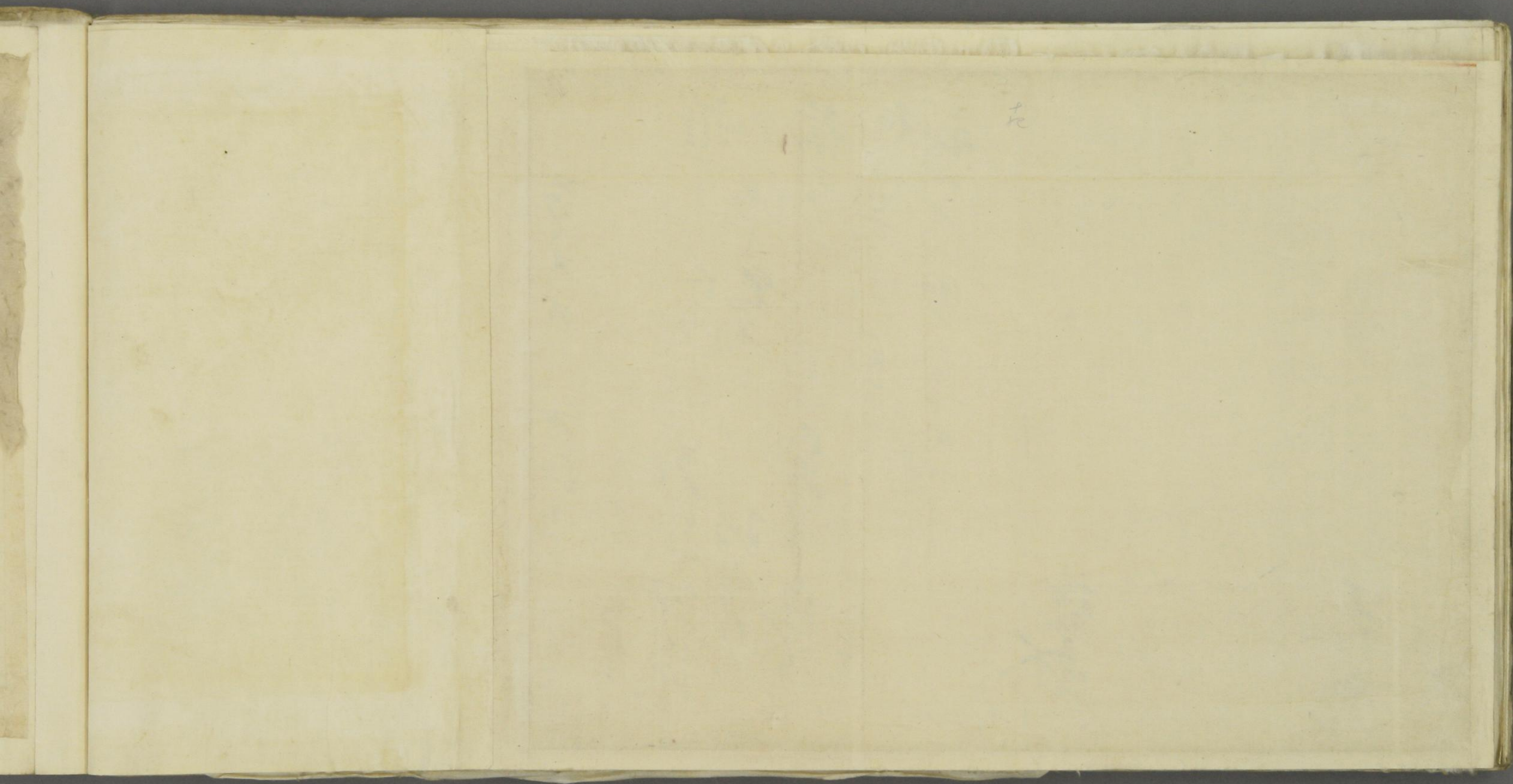
如... 可... 也

雅事... 得... 崇... 相... 永...

德... 家

王... 祥... 殿

...



Вамъ добрымъ сердцемъ. Спасибо.

10  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

田  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録  
 録



Всѣмъ добрымъ сердцамъ, спасибо.

15  
シカノ下書

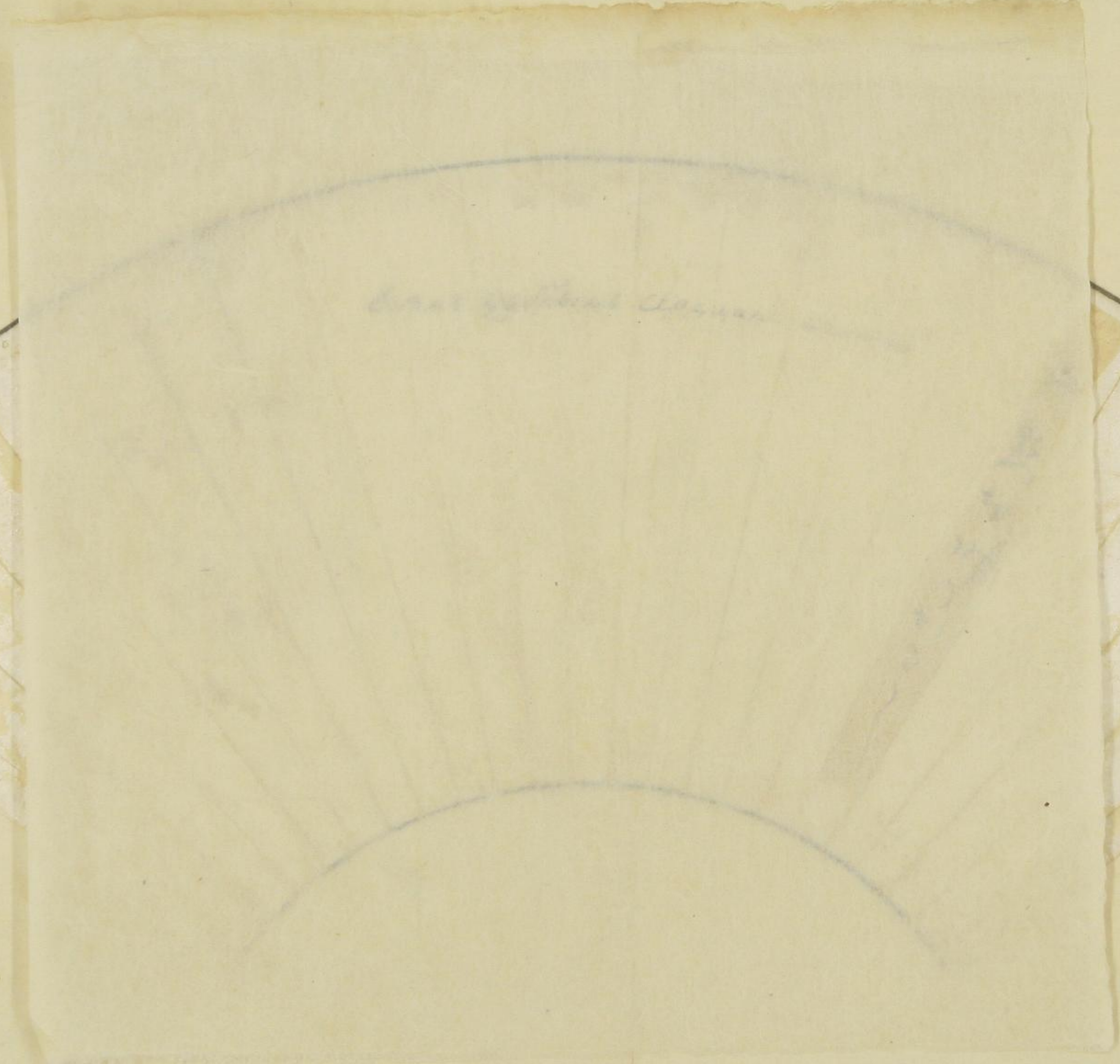
魯西亞使節シカノ下書

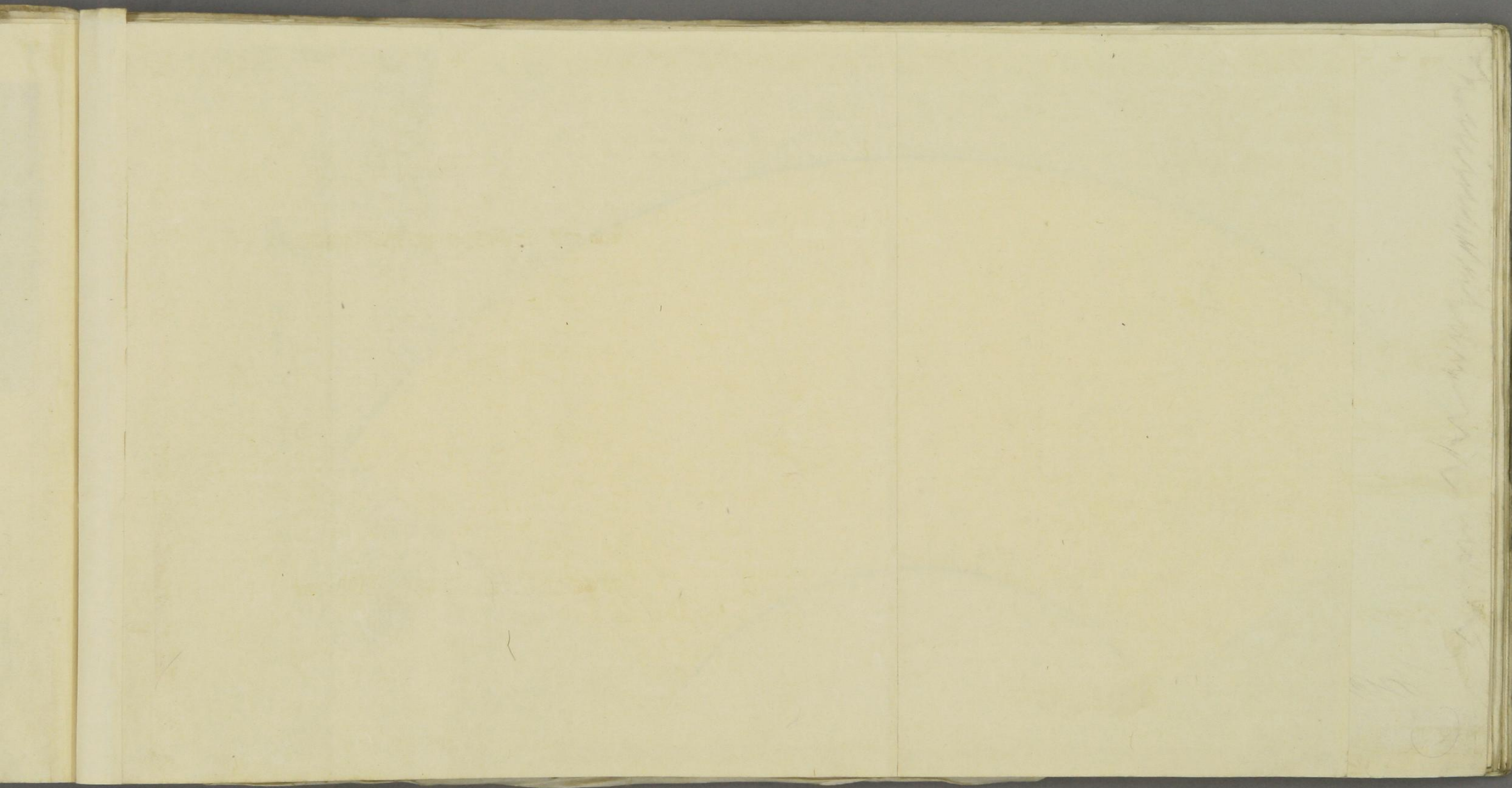




Fragment of paper with illegible markings and a small number '2'.

魯西亞使節シサノ下書





杜田子河筆

若座 結跏

無量壽如來修觀行供養

儀軌二葉左 合卷十七葉左 蒙字四第五 祕密儀軌卷第一曰然後

結跏趺坐或半跏坐右押於左

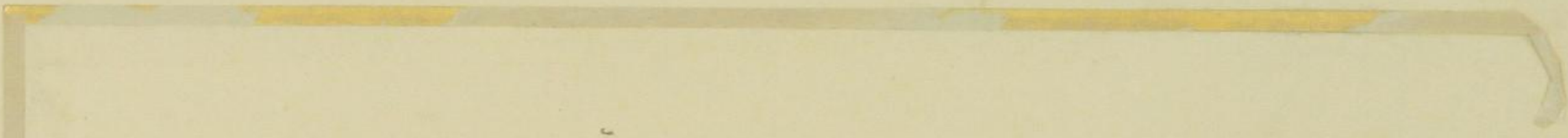
金剛頂瑜伽中略出念誦經

第一十葉曰若或結如來坐

全結也或結大菩薩坐半結也

17

3

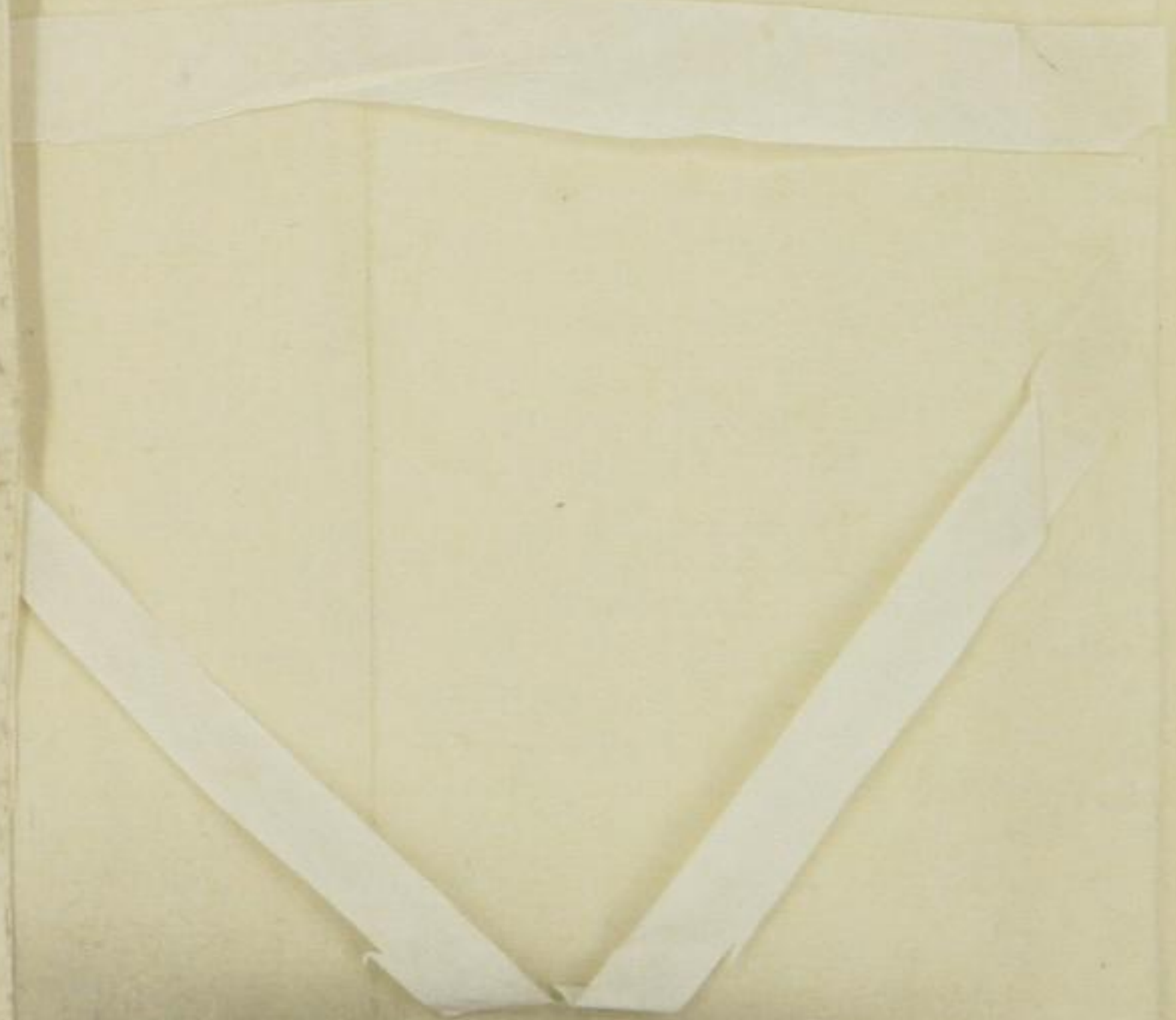
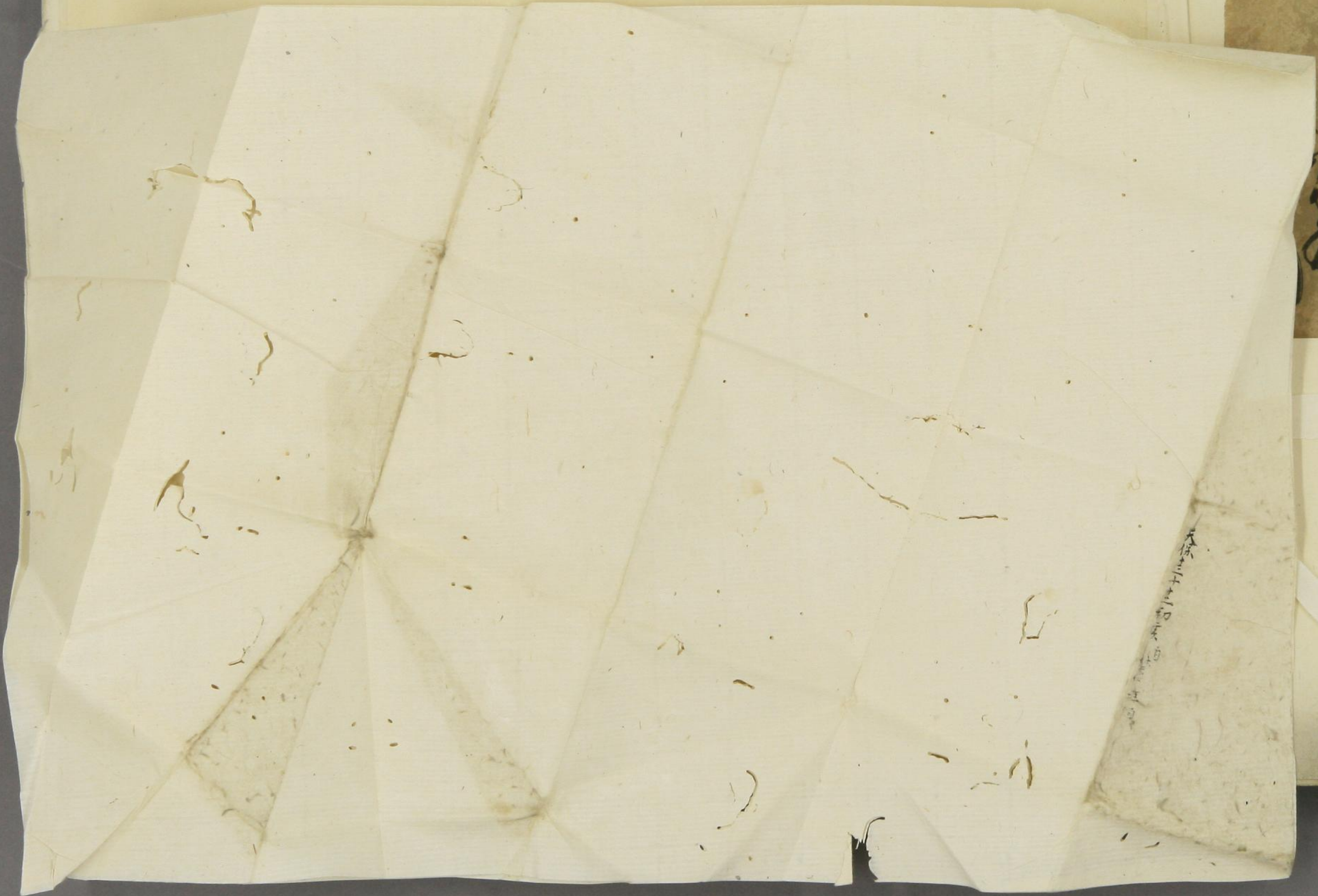


Faint vertical text or markings in the center of the page.

117

連  
の  
舞  
の  
舞







1001-1011 改





為江廣く嘉成

先以名私印

入本館納し

の海礼少新

計

水天の字相

正り母の  
まゝ

竹村共名

Handwritten text on the left edge of the page, including the characters 'A', '0', '1', '2', '3', '4', '5', '6', '7', '8', '9', and a period.

當使令官一能 柳林城入道進討事後  
向後後濟之富 此致何所流之由後後下  
之之遊之向類之之之之 休神母識可預  
亦付之能 亦文永之年 亦與 亦事 亦能 亦之  
間人之上致力之 亦致安之 亦能 亦能 亦能  
與平緒高之德 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
臣表入道是江學之牙 但非分致謀之 同  
月之文曰 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
古有存謀之 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
此九世中 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
而力能之 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
白人者 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
亦有法 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
此之有 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能  
可也 亦能 亦能 亦能 亦能 亦能

十二月廿日

趙守頭贈

書用山妙能  
禪名者方丈  
修名清平

一 雀鳴乃時分起き 祖先环拜し朝の日

坂月代入湯小治下小産屋庭除潔掃  
可致以程閑隙者いれ古法帖臨書下は

篆隸莫行字結字法記し下は

一 朝飯後し夕飯前し経書國史熟讀可

行し経書と書いし重可い妄談雜談可戒申

一 夕飯後し其命すく抄書又ハ写物亦可致す

日中者他心いしり夕飯後し心夜不入

一 内屏者下は夜行一向之用の事

夜分同志と合せ詩文集又ハ雜書論可い子ハ

一 刺と不道下下は

一月二度ハ二度ハ同志と大助友あり詩會聚

一 下ハを題以賣い或ハ字以揮り次類ホテハ

点中取と乞可出此氷雪の請批判下は

一 物事と當ハ此氷雪の留問下は

一人ハ致巻と起り此日志力心術と揚可い記

一 論ハ學考の事當ハ下ハ此程事ハこれと人

玩物喪志と戒り此道と學考者ハ此理の句語と

一 講義を多くと尋路と起き下は

一 厚衣厚食と和ハ志長き下ハ少可い修氣也

一 下ハ此ハ此不潔事下ハ此抄也

安永七年五月廿七日 西因

月島 紅毛の船

大田  
清

之好不如也之意法

誅、補、中、也

東、十、日、胡、中、法、度、

古、法、生、一、為、年、中、也

清

喜

二月十日

幼學綱要領賜の勅諭

藝倫道德は教育の大本我朝支那と古くも  
其の亦歐米在國に亦修身の學あり之雖も之  
中朝に採用するも其の亦我朝に方今學科  
多し忠孝成布之仁義を先にするは固く  
命に此書を編むるも功に領賜の備所  
要なりとす事代知しむ

曾論の大意諸君に奉給服膺あむことを要す  
明治十七年十二月 宮内卿徳方寺實男則

明治十七年十二月 草莽儒臣島田葉根謹書 時年 八十二



一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也  
一  
天  
之  
氣  
也  
其  
氣  
之  
清  
濁  
與  
地  
之  
陰  
陽  
相  
應  
而  
成  
萬  
物  
之  
性  
也  
故  
曰  
天  
地  
交  
感  
萬  
物  
化  
生  
也  
此  
天  
地  
之  
道  
也





天啓中為事

一、天啓中、  
御前、

御前、

御前、

御前、

御前、

御前、

御前、

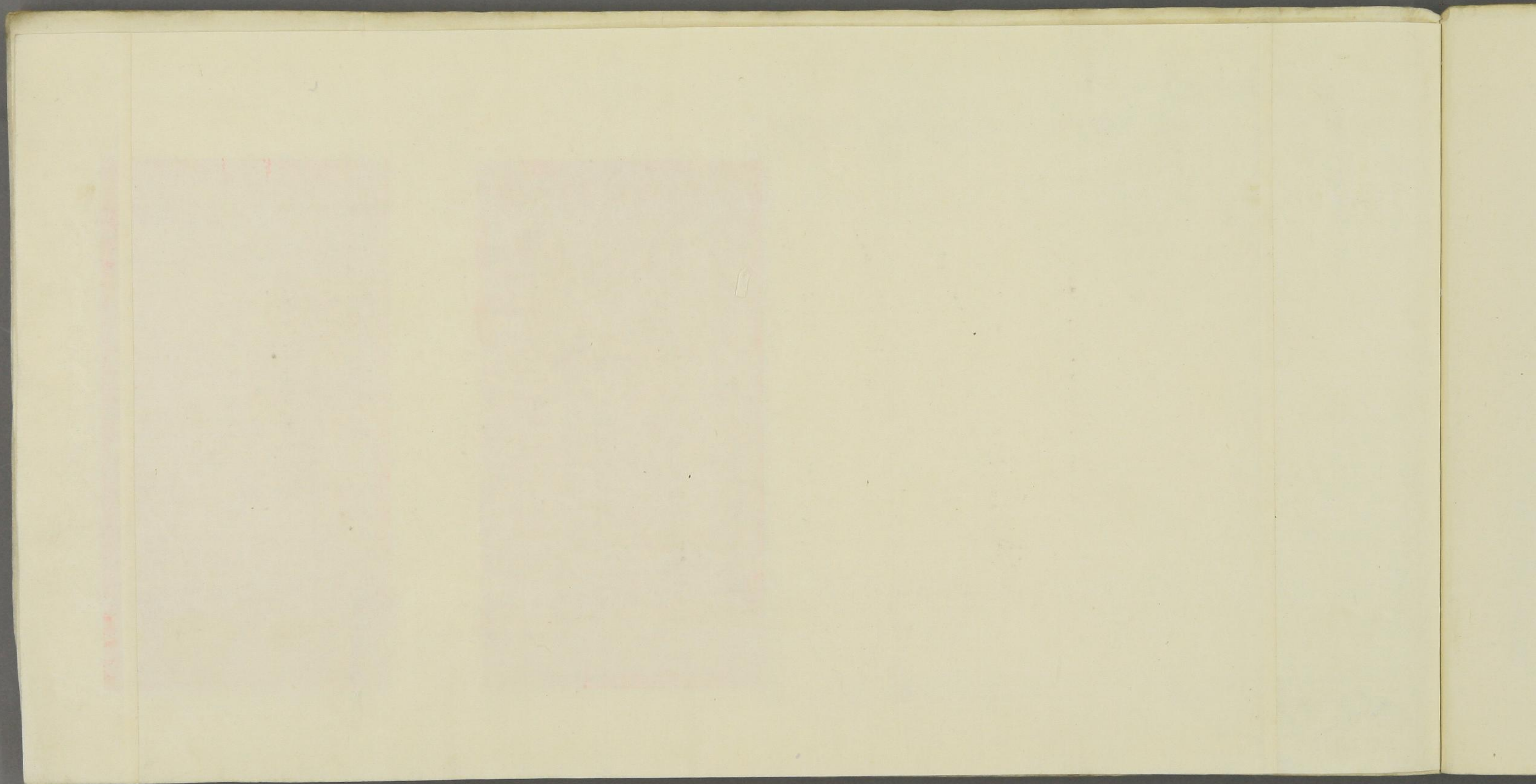
御前、

御前、

御前、

御前、

御前、



敬啓者避暑東游獲親

槃藪並承

不我遐棄

賜覽圖書別後幸：神馳

左右敲維

琳琅閱富

著饌蜚英

瀛島聲華至為景仰 濟碌如昨之淑可陳惟此次

游歷

貴邦得與

諸君子晤敘益暢游三島諸名勝益擴見聞暇軀亦較

健適欣幸矣如現仍與同志諸君從事編輯鱗鴻

多便尚祈

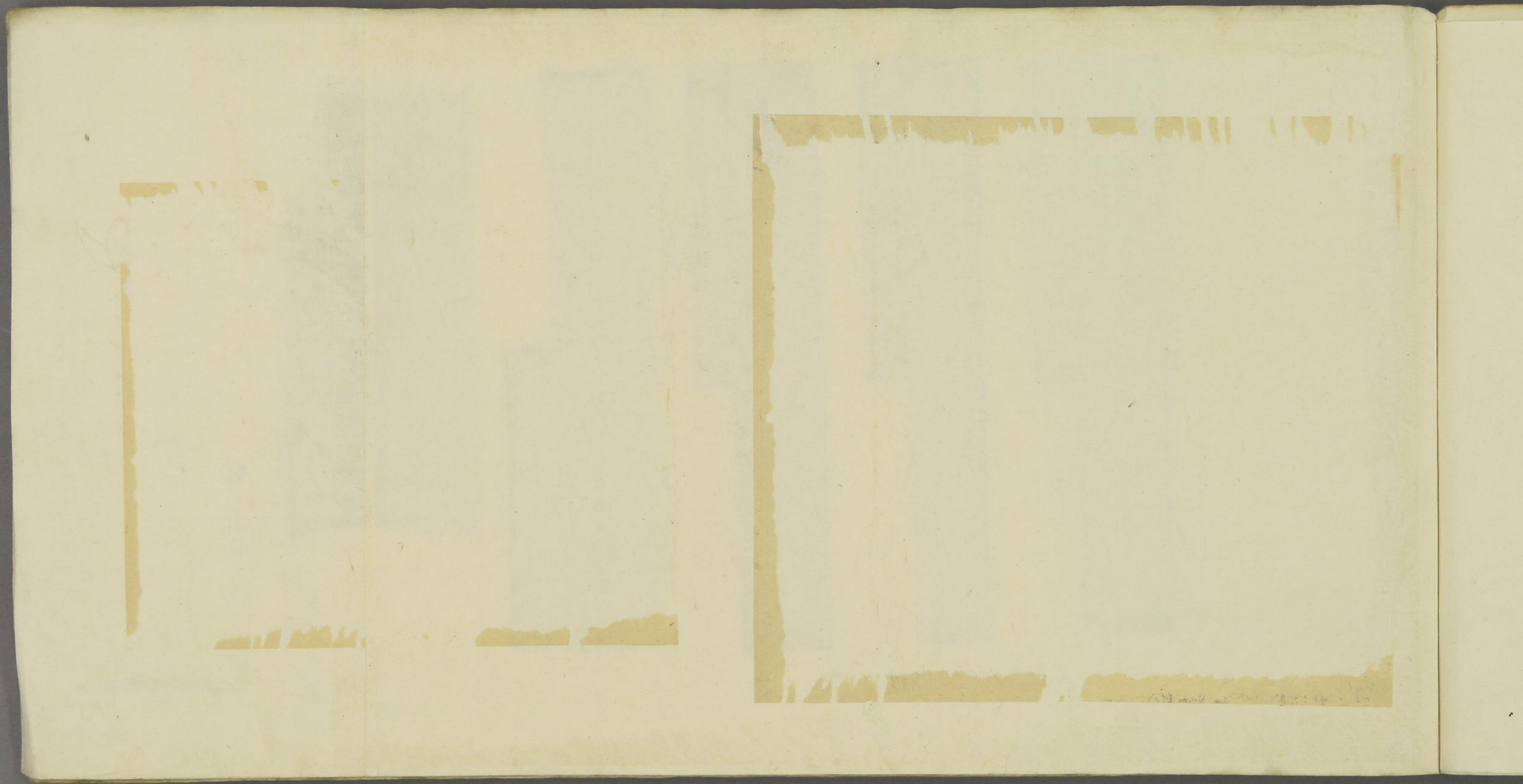
時賜教益俾有遵循是所致禱為此敬頌

台祺諸惟

激譽不既

張元濟頓首

中歷十月廿一日



後醍醐天皇  
御筆  
御書  
御筆  
御書

結川龍南の書と云ふ

後醍醐天皇

御書  
御筆

近衛慶尚通御

川漢遠驚孤

鳥丸光廣御

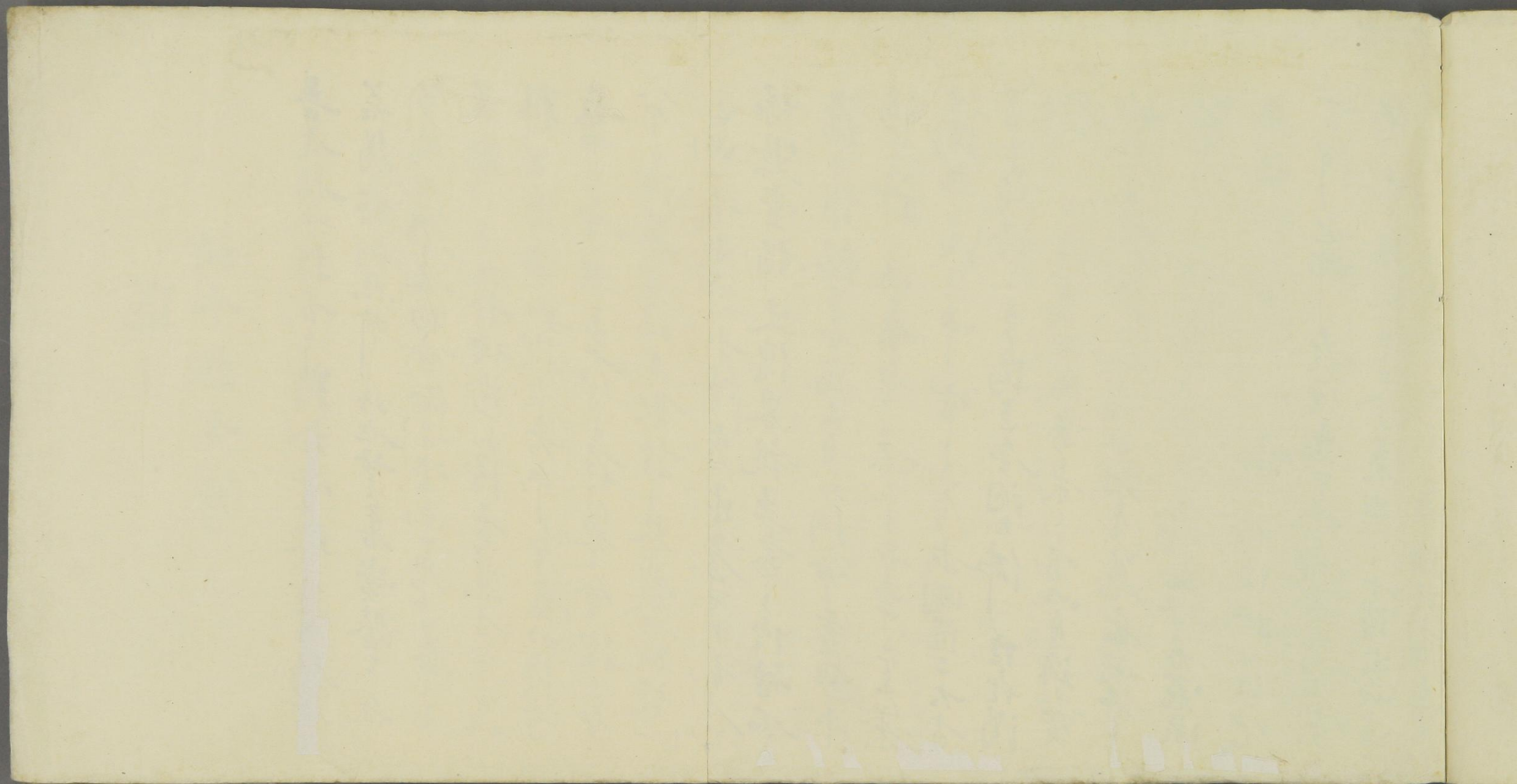
歎節小字之末不出類也

細川三升

御書

片桐石見守

尤者一ノ



送

拍木探古序

吾友拍木探古之精於賞鑒探古鈎法  
若揭秦銅照所一也也其善賞鑒者亦  
多悲或偏古器物或偏在畫畫真善者  
蓋鮮矣况於博涉初淺者覽古今善  
辨其真贗如探古者乎今茲以治公等  
友四月字樂未了多待覽之會探古奉  
命之誥差官深之取於鑒裁也行裝已  
成回一言於余之於賞鑒惟亦也何故  
喙然嘗誦史傳畧觀五帝之隆替而  
竊之偽鑑鑑其古焉又自初洞帝遷都平  
城至神後康唐之末凡七古五千之集  
只間幾少假於中宮之古有按兩置之古  
道七層塔之古焉古之在佛也其渴  
仰古者焉古之在佛也其渴仰古者焉  
如形之天位於佛而極之是為國佛之  
聖也其古之於佛也其渴仰古者焉  
然漢禮攻學以之月朝之然極視之故也  
言何也佛次僧惡比丘之禍於已也古  
佛先之熾焰亘古今集傑之士皆形如  
而業成之也其古之於佛也其渴仰古者焉  
罵所仗日者而為王也天朝何日古如  
此其正彼在焉若果何物故萌如聖然也

佛光之熾焰亘古今集傑之士皆形如  
而業成之也夫豈臣民之豪驕跋扈而苟且  
罵昭使日者而為王也夫朝何日者必何如  
此其正彼在焉若果何物故萌如理然生  
事之之是特帝與后之慈深亦由商所  
士大夫之登裁之明而抑東大寺創立距  
今一千有餘歲歷物新舊於計一若  
寶物指之運極而素者待之由之而探  
古德常之保亦能友慨然之也既登且若  
裁之物而為日也何年雖然登其難於  
鑿益識人難於後之探在也者河如鳴  
呼文兮之政府亦人才之博覽多也而孰能  
舉裁其去廢良窳使且益適乎且價  
者其在探古之行又之誠有感也

明治二十五年四月

志軒信文筆





